

# 安全性データシート(SDS)

改訂日: 2015年8月1日

## 1. 化学品名及び会社情報

化学品名 再生ノルマルパラフィン

製造会社名 京葉ケミカル株式会社

住所 千葉県白井市名内324-19  
電話番号 047-491-7609 FAX番号 047-491-7625

販売会社名 京葉ケミカル株式会社

住所 千葉県白井市名内324-19  
電話番号 047-491-7609 FAX番号 047-491-7625

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性		健康に対する有害性	
火薬類	分類対象外	急性毒性(経口)	区分外
可燃性・引火性ガス	分類対象外	(経皮)	分類できない
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	(吸入・ガス)	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外	(吸入・蒸気)	区分外
高压ガス	分類対象外	(吸入・粉じん)	分類対象外
引火性液体	区分3	(吸入・ミスト)	分類できない
可燃性固体	分類対象外	皮膚腐食性・刺激性	区分3
自己反応性化学品	分類対象外	眼に対する重篤な 損傷・眼刺激性	区分2B
自然発火性液体	区分外	呼吸器感作性	分類できない
自然発火性固体	分類対象外	皮膚感作性	分類できない
自己発熱性化学品	分類できない	生殖細胞変異原性	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外	発がん性	区分外
酸化性液体	分類対象外	生殖毒性	分類できない
酸化性固体	分類対象外	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3 (麻酔作用・気道刺激)
有機過酸化物	分類対象外	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
金属腐食性物質	区分外	吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性			
水生環境急性有害性	分類できない		
水生環境慢性有害性	分類できない		
オゾン層への有害性	分類できない		

### GHSラベル要素

絵表示



注意喚起後 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気  
加熱すると容器が爆発する恐れがあります。  
常温では簡単に引火する事はないが火花や炎により引火することがある。  
火は、刺激性、腐食性を有し、また有毒なガスを生成することがある。  
蒸気は、吸引すれば身体には有害である可能性が高く、警告なしに  
めまいや窒息を引き起こす可能性があります。

### 3. 組成情報

化学品名	ノルマルパラフィン
成分の構造	単体の炭化水素
純度	ノルマルパラフィン 99.0重量%以上
化学式	C10H22
官報公示番号	(2)-10 (化審法)
CAS NO	64771-71-7

### 4 応急措置

#### 吸引した場合

空気の新鮮な場所に移動させます。  
吸引者が呼吸していない場合は、人工呼吸を実施する。  
呼吸が困難な場合は酸素を確保させます。  
速やかに医師の手当てを受ける。

#### 皮膚についた場合

皮膚を少なくとも20分間、清浄された流水で直ちに洗い流す。  
直ちに衣服を脱がせ、汚染された衣服および靴を隔離する。  
汚染された衣服や靴等は徹底的に再使用前洗浄(または破棄)。  
速やかに医師の手当てを受ける。

#### 眼に入った場合

目を少なくとも20分間、清浄された流水で直ちに洗い流す。  
速やかに眼科医の手当てを受ける。

#### 摂取した場合

意識のない人には何も与えてはならない。  
速やかに医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の措置

#### 消火剤

風上より防火服を着用し適当な消火剤として乾燥砂、粉末消火剤、通常の泡消火剤などで窒息消火をはかる。

### 6. 漏出時の措置

#### 初期対応

すべての着火源(すぐ近くの喫煙、フレア、火花や炎)を除去する。  
その場所の換気を行い漏出箇所を塞ぐ。  
蒸気を吸い込まぬようマスクをし漏出した物質に触れないように心掛ける。  
砂や土、ウエス、おがくず等不燃性の吸収材で吸収し、清潔で乾燥した容器に移し替えて火の気のない所に移動させる。その後プラスチックシートや防水シートで覆い、粉末流出や拡散を最小化し、ドライに保ちます。

#### 環境に対する注意

水路、下水道、地下室または密閉された場所への漏出を防止する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

適切な静電気対策を講じて炎、火花など高温体との接触を避ける。  
液の入った容器には衝撃を与えず未使用時には密閉する。  
皮膚は石鹼と水で洗浄すること。  
ばく露防止/保護処置の項を参照のこと。

## 保管措置

密閉容器に保管する。  
涼しく乾燥した場所に保管する。  
炎、火花など高温体の物から離して保管する。

## 8. ばく露防止・保護処置

### 作業場

通気口や空調・換気機能装置設置が望ましい。

### 設備対策

静電気放電に対する予防を講じ出来るだけ密閉された装置を使用する。

### 人的保護

側面シールドつきメガネ、長袖の上着および耐油性の手袋、安全靴などを使用する。外部からの訪問者が接触する可能性がある場合は、最小限側面シールドつきメガネの着用を励行する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 基本的な物理的および化学的特性に関する情報

外観	20°Cで透明液体
色	クリア無色
臭い	かすかな臭い
沸点°C	1気圧で169~172°C
融点°C	最大-10°C
引火点	53°C
発火点	最小200°C
密度(15/4°C)	0.735

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

高温の表面または火花により発火することもある。  
水とは極微量しか混合せず水面に浮遊する。

### 反応性

強酸化剤と反応し火災の原因となりえる。

### 混触危険物質

酸化性物質

### 避けるべき条件

炎や火花の発生する物から距離が近い事。

## 11. 有毒性情報

急性毒性	経口 ラット LD50 5000mg/kg以上
皮膚腐食性	刺激性
その他	吸入や摂取は生命に危険の恐れがある。

## 12.環境影響情報

魚毒性 データ不足の為、分類できない

蓄積性 現状では有効な情報はなし

分解性 現状では有効な情報はなし

水生環境有害性(長期間)  
データ不足の為、分類できない

オゾン層への有害性  
現状では有効な情報はなし

## 13.廃棄上の注意

### 残余廃棄物

事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者・地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
不法投棄の禁止  
埋め立て処分を行う場合には、予め焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについて次に示す物質が総理府で定めた基準以下であることを確認しなければならない。  
銅又はその化合物、亜鉛又はその化合物、フッ化物、アルキル水銀化合物、水銀又はその化合物、砒素又はその化合物、六価クロム化合物、有機リン化合物、鉛又はその化合物、シアン化合物、PCB、カドミウム又はその化合物。

### 焼却法

そのまま又は易燃性溶剤と共に、安全な場所で、かつ燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で、少量ずつ焼却炉に噴霧して行うとともに、見張り人をつけること。燃焼時、吸収(又は吸着)装置の設置を要する。

### 容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って、適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14.輸送上の注意

### 国際/国内規制

陸上規制 「消防法」の定める所に従って運搬する。

### 海上航空規制

IMO/ICAO(国内:船舶安全法・航空法)の規定に従う。

国連番号 1993

品名 Normal Decane(ノルマルデカン)

国連分類 3(引火性液体)

容器等級 III

海洋汚染 Not applicable(非該当)

### 安全対策

「消防法」に従う。  
危険物は当該貨物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中、危険物が著しく漏洩する等、災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、最寄の消防機関その他の関係機関に通報すること。

移送時にイエローカードの保持が必要。

運搬に際しては、容器等に洩れ、破れのないことを確認し、落下、転倒、破損のないように積載し、荷崩れの防止を完全に行う。

ローリー等への積み込み、荷おろしの際はサイドブレーキ、エンジン停止、車止め、静電気対策のため接地する。

ホースによる注入作業はホースの結合部を確実に締め付け、結合したことを確認する。ホースの脱着時はホース内の残留物の処理を完全に行う。

大量に運搬する車両、ローリー、運搬船には所定の標識、消火設備、災害防止用応急資材を備える。

ローリー移送には法で定められた資格者を乗車させる。長距離の場合には2人以上の要員を確保する。

その他取扱い及び保管上の注意の項の記載による。

## 15.適用法令

### 労働安全衛生法

危険物(引火性の物)

有規則・特化則には非該当

### 消防法

危険物第4種第2石油類(非水溶性液体)

危険等級 III

### 毒物劇物取締法

非該当

## 16.その他の情報

SDS更新日 2015年8月1日

このSDSに記載する情報は、現段階で入手しえる最新の情報に基づくものでありますが、安全を保証するいわゆる保証書ではありません。また新たに情報を入手した場合は、追加・訂正されることがあります。本商品を取り扱う事業者におかれましては、この情報を参考として、自らの責任において実施に応じた適切な処理が必要である事を理解された上で、本SDSを活用されるようお願い致します。